

実施学年	5年	実施教科 (科目)	社会	実施日	H24. 11. 8
単元名	自動車をつくる工業				
本時の内容 (項目)	自動車づくりのくふう				
本時の目標	自動車づくりの工夫を調べる活動を通して、よりよい製品をつくったり作業をしやすくしたりするために、機械を効率よく使っていることやひもスイッチやあんどんなど働く人の工夫があることが分かる。				
授業場所	5年2組教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他 ( )	ICTの主な 活用者	教師・生徒		
活用するICT 機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	・プレス、溶接、塗装の様子を映像や写真で見て、機械がほとんど作業していることに気付く。 ・組み立ての様子を映像や写真で見て、働きやすくするための人々の工夫を見つけることができる。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容	・注目した部分に印をつけたり文字を書き込んだりすることができるように、電子黒板に文字を書く方法を指導する。				
利用するコンテンツ名・ サイト等	・クルマ子どもサイト <a href="http://www.toyota.co.jp/jp/kids">http://www.toyota.co.jp/jp/kids</a>				
参考にしたサイト・ 文献等	・クルマ子どもサイト <a href="http://www.toyota.co.jp/jp/kids">http://www.toyota.co.jp/jp/kids</a>				
事前の準備					

指導計画（授業の展開）	<p>1. 課題をつかむ。 自動車をつくるときに、働く人々はどのような工夫をしているのだろう。</p> <p>2. 自動車生産の映像を見る。</p> <p>3. 個人追究をする。 ・機械と人で作業する部分が分けられている。 ・ラインの上にひもがついている。</p> <p>3. 全体交流をする。 ・危険な作業や力の必要な作業は機械で行っているが、細かい組み立ては人が手作業で行っている。 ・ひもスイッチとあんどんで、すぐに問題が解決できるように工夫されている。</p> <p>4. 深めの発問をする。 なぜこのような工夫があるのだろう。</p> <p>・機械と人で作業を分担することで、より多くの自動車をつくることのできるから。 ・不良品をなくして、よい製品をつくるため。 ・楽に作業をするため。</p> <p>5. まとめをする。 働く人々は、よい製品をより多くつくったり作業しやすくするために、機械と人で作業を分担したり様々な道具を開発したりするなどの工夫をしている。</p>	<p>（※情報モラルの指導内容）</p> <p>・出典名を明らかにする。</p>
ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点	<p>・すぐに電子黒板で作業ができるように準備をしておく。</p> <p>・どの席からも電子黒板の映像が見れるように、教室の明るさや電子黒板の向きを調節する。</p>	
ICTを活用した授業時の児童生徒の反応	<p>・動画で機械が作業している様子を見ることにより、危険な作業でもすばやく正確に作業していることに気付くことができた。</p> <p>・動画で組み立てラインの様子を見ることにより、ひもスイッチとあんどん、らくらくシート、ワゴン台車など、働く人々の様々な工夫に気付くことができた。</p>	
ICTを活用した授業後の評価（実践の手応え）	<p>・動画で実際の様子を見せることにより、それぞれの工程の工夫に気付くことができた。</p> <p>・全体交流の場で、工夫している部分に印をつけたり文字を書き込んだりすることで、どの部分の説明をしているのかを共通理解することができた。</p>	
今後の課題	<p>・どんな資料を見せればねらいを達成することができるのかをよく吟味し、資料を精選していきたい。</p> <p>・児童が電子黒板を使用する際に、まだ使い慣れていないため時間がかかってしまったので、これからも継続的に電子黒板を使用していきたい。</p>	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。